

令和7年

第6回農業委員会全員協議会 議事録

(令和7年12月22日開催)

武蔵野市農業委員会

令和7年第6回農業委員会全員協議会 議事録

- 1 日時 令和7年12月22日（月曜日）午後3時
- 2 場所 武蔵野市役所西棟8階812会議室
- 3 協議・報告事項
  - (1) 引き続き農業経営を行っている旨の証明について（4件）
  - (2) 農地法第4条第1項第7号の規定による農地転用届出について（1件）
  - (3) 農地法第5条第1項第6号の規定による農地転用届出について（2件）
  - (4) 農業振興基本計画の策定について
  - (5) 農家見学会について
  - (6) 国への要望ならびに都への意見に関する内容の検討について
  - (7) 農業委員の改選について
  - (8) その他 会議等日程
- 4 出席委員

1番	榎本一宏	君	2番	後藤幸治	君
3番	森田茂紀	君	4番	松本正人	君
5番	北沢俊春	君	6番	下田誠一	君
7番	榎本英明	君			
			10番	大谷壽子	君
11番	高橋栄治	君	12番	吉野憲二	君
			14番	櫻井義則	君
- 5 欠席委員

			8番	土屋美恵子	君
9番	中村健二	君			
13番	坂本和人	君			
- 6 委員以外の出席者 なし

7 事務に従事した職員

局長	小池鉄哉君
係長	合田宇宏君
主任	助川瑞樹君
主事	宮内香奈君
会計年度任用職員	浅賀恵津子君

事務局長

ただいまより、令和7年第6回農業委員会全員協議会を開催したいと存じます。

皆さま先日は表彰式等にご参加いただきまして、ありがとうございました。

それでは会長、お願いいたします。

会長

ただいまより、農業委員会全員協議会を開催いたします。

本日は、土屋委員、中村委員、坂本委員が欠席です。

署名委員は、12番吉野委員、14番櫻井委員にお願いします。

それでは、協議・報告事項に入ります。

(1) 引き続き農業経営を行っている旨の証明について

(2) 農地法第4条第1項第7号の規定による農地転用届出について

(3) 農地法第5条第1項第6号の規定による農地転用届出について

一括して事務局より説明を求めます。

事務局

[事務局説明]

2番 後藤会長  
職務代理者

1件目は本人立ち合いのもと確認しました。キャベツ、ナスが綺麗に作付けされ収穫をされていきました。問題ありません。

2件目は●●が植えてあり、下草の管理もされていて綺麗でした。

3件目は柿が植わっていました。下草もなく綺麗でした。

4件目は野菜の作付けやハウス栽培が行われ収穫作業や栽培の準備をしていて、きちんと管理されていました。

以上、4件報告させていただきました。

事務局

[事務局説明]

会長	以上について、何かご質問等ございますか。
	〔質疑なし〕
会長	続きまして、 (4) 農業振興基本計画の策定について 事務局より説明を求めます。
事務局	〔事務局説明〕
会長	以上について、何かご質問等ございますか。
5番 北沢委員	学校給食の地場産率35%について、市内産野菜だけでは達成するのは難しいのではないのでしょうか。法人を作り他市に農地を借りればもっと増えるのではという意味での提案です。 市内生産者が市内産野菜を供給することだと理解していますが、数値を達成するためには対策が必要になると思います。
会長	数値達成のために他の市からも集めて供給をするという案でしょうか。数字を達成するために供給を求めている訳ではなく、地場産野菜をどのくらい学校給食に供給して、子供たちに新鮮な野菜を食べていただけるかということを目指しています。学校給食を市内農家が自給自足するという意味合いです。
11番 高橋委員	35%という数値の根拠はありますか。
会長	学校給食が始まった当時、全国での最高達成率が35%だったので、当時の市長により一番高い数字を目標にした経緯があります。
11番 高橋委員	その当時の武蔵野市の達成率はどのくらいですか。
会長	数軒の農家だけなので数%でした。現状は25~26%です。
2番 後藤会長 職務代理者	学校給食部会としては数値を目標に供給を増やすよう、生産力、技術を高めるように頑張っています。農業者たちにとって大きな目標になっています。

- 11番 高橋委員 達成できる目標なのかどうかということだと思います。数値を達成することだけを考えるのであれば、市内農家だけでなく他から供給する等の対策がないと難しいのではないのでしょうか。
- 会長 数値をクリアすることだけであれば、重量ベースで考えて重いものだけ作付けすれば達成できると思います。出荷する野菜の品目も増えて、重量の軽い小松菜等の葉物を含めると35%は厳しいと思います。
- 11番 高橋委員 農業者の高齢化が進んでいますが、武蔵野市の農地を市内農業者が借りるのが良いと思います。学校給食部会が理想に向かって動き出しているので、35%という数字は決して夢の数字ではありません。給食部会のアクションが現実味を帯びていると思います。
- 2番 後藤会長  
職務代理者 35%という数値は大きな目標ですが、農業意欲に繋がる大事な数字だと考えています。貸借もできますし、目標は変えずに武蔵野市の農業者たちで頑張りたいと考えています。
- 事務局 今夏に市内農業者との意見交換会を行い、地場産率について35%では達成するのは大変なのではと率直な意見を伺ったところ、多くの農業者から35%という数値は変えずに皆で目標として頑張りたいというご意見をいただいたので、給食財団と調整し、この数値になりました。もし35%達成できなかつたとしても、どのくらい市内産野菜を使っているかPRできるよう、市民や保護者の方、農業者からも分かりやすくなるように3種類の数値を設定しました。35%は難しい部分もありますが、懸命に取り組まれているので、この案で検討を進めています。
- 5番 北沢委員 他の市の数値は分かりますか。給食財団があるのは武蔵野市だけです。給食財団とJAと農業者を結ぶ、良い仕組みだと思います。●●市はどうですか。
- 事務局 他市はすべて把握しきれいていませんし、公表していない市もあるのでお示しできませんが、武蔵野市のこの数値は高い方だと思います。

会長 ●●市は当初から高い数値を設定しています。武蔵野市は●●市に勉強しに行きました。

事務局 ●●市の農家規模や生徒数が分からないので、なんともいえませんが、目標値は25%で直近のデータでは約30%となっています。ただ計算方法が武蔵野市とは異なり、金額ベースで算出しているので一概に数値の比較はできませんが、●●市ではこのように取り組まれているようです。

3番 森田委員 25%を超える現在の成果はとても素晴らしいことです。今の比率だと低いというような批判があるのでしょうか。数値に縛られずに、どうしたら趣旨が活かせるのかを考えないと、数値の目標達成だけが目的になってしまうのではないのでしょうか。

会長 それではご意見があれば、期日までに提出してください。

続きまして、  
(5) 農家見学会について  
事務局より説明を求めます。

事務局 [事務局説明]

会長 以上について、何かご質問等ございますか。  
農家見学会では、皆さまありがとうございました。今までは応募が多く倍率が高くて、全員を受け入れることができませんでしたが、今年度はチラシの配布がなくなったためか、応募が非常に少なくなってしまったことが反省点です。来年度は変えていかないと考えています。ご意見をお願いします。

6番 下田委員 なぜ学校にチラシの配布等ができなかったのですか。

事務局 市の教育委員会が電子化を進めていて、学校から保護者への紙の配布が中止となったので配布できませんでした。

14番 櫻井委員 児童はタブレットから通知を見ることができるのですか。児童も案内が見ることができるようにした方が良いと思います。

事務局 農業振興に限らず他の事業での募集でも減っています。電子

化が原因だと思われます。先生の業務の効率化のため紙を廃止しています。以前は児童が配布されたチラシを自宅に持ち帰ることで保護者に知らせていましたが、今は保護者向けのアプリに通知されるようになっていました。例外的に配布しているものもあるようですがペーパーレスの傾向は続くと思いますので、ポスターを作成したり、図書館や学童クラブに配布する等、今までとは異なる周知方法を検討したいと思います。

11番 高橋委員 来年度以降もこの現象が続くと考えると、開催ほ場を減らすのか、午前午後の2部制ではなく開催回数を減らすのか等、考えていかないと、ほ場主も困ってしまうと思いますので、農業委員会で検討しなければならないと思います。

12番 吉野委員 学校では食育をやっている中で学校給食のデータがありますが、学校給食に地場産野菜がどのくらい使われていて、実際に野菜を作付けしている現場を見るために農家見学会に参加するというのが教育の一環だと思います。

情報の伝達により案内を見ていない人が多いとのことですが、アプローチの方法は色々あると思います。来年度は分かりません。せっかく長年続いているイベントの意義が薄くなってしまうので、検討する必要があると思います。

事務局 ご提案いただいた食育ですが、給食財団の栄養士と学校給食部会との対談には市も参加しています。農家見学会があることをアピールしていないので、自分たちが食べている野菜が実際に作られる現場を見てもらうよう検討したいと思います。

12番 吉野委員 実際に給食を食べている児童たちが市内産野菜のことを知りません。今日のメニューの中で、この野菜は市で作られた野菜だということを教えると児童も興味を持つと思います。食育という言葉だけが先行していて、本当に児童に伝わっているのか疑問です。食育の意味を考えてみないといけないと思います。

会長 給食の時間に今日の給食に使われている野菜や生産者の紹介をする学校もあるようです。学校や校長によって食育の方針がかなり異なるようです。献立表に生産者の情報や、武蔵野かてうどんは市内産野菜を使用していること等を掲載している学校もあるようです。

- 4番 松本委員 献立表も保護者用アプリで見ることができます。イベントが一覧でずらっと並んでいて、一番下の欄に農家見学会の案内がありました。
- 11番 高橋委員 出前講座や畑の受け入れを広げて、その場で児童に農家見学会の案内を配布するくらいしないと、応募数が減っていくのには目に見えています。  
近くの小学校の児童に10月に種を蒔いてもらい収穫した小松菜を12月の給食に出した時に、校内放送していただきました。なかなかできることではありませんが、学校によって取り組みが異なります。
- 14番 櫻井委員 小学生を受け入れて大根の播種から収穫まで行いましたが、先生の食育の考え方によって異なります。武蔵野市農業者としては栄養士から児童に伝えていただいたり、献立表にPRしたり考えていただきたいです。  
今は電子化に転換していく過渡期かもしれません。ただもう少し紙でのアピールを続けることも必要ではないでしょうか。
- 事務局 2月に学校給食部会と意見交換会を行う予定です。農業委員会からも意見と伝えていきたいと思えます。学校体制を変えることは難しい部分もあるので、状況を見ながら教育委員会の方に働きかけたいと思えます。
- 11番 高橋委員 農家見学会は給食財団と組んで、知恵を出してもらう方法がありますか。
- 事務局 周知方法についても栄養士や給食財団と話したいと思えます。  
学校によっては、トウモロコシの皮むきを児童に手伝ってもらうことで、地場産野菜を知ってもらう機会を作っている学校もあるようです。
- 5番 北沢委員 学校カリキュラムは4月に決まってしまうので、出前授業等、そういう取り組みも必要ではないでしょうか。
- 会長 まずは給食財団や教育委員会を含めて、応募が減ったことについて話し合いを行い、対策等をお願いします。

続きまして、

(6) 国への要望ならびに都への意見に関する内容の検討について

事務局より説明を求めます。

事務局

〔事務局説明〕

会長

以上について、何かご質問等ございますか。

5番 北沢委員

物納は国の制度ですので売ることが前提です。農地が無くなってしまうますが、市であれば寄付できます。市の寄付は税制をちゃんとすれば寄付した部分を除いて相続税を支払うので、それに見合った税制を確立することが市の方ができると思いますが、物納と市への寄付を分けて考えて、税制を修正した方が良くと思います。

事務局

寄付と税制の関係について切り込んでいく方法もありますが、今回のご意見は、相続税の制度自体について物納から売却するという流れではなく、そうではない制度を作ってほしいと解釈しました。

会長

寄付ではありません。現状では、相続税の支払の際に農地を売って税金を納めています。物納した場合、畑の部分のみ免税をしてもらい、その分を市で管理してもらい、市から農地を貸借させてもらえれば、多くの税金を支払わずに済むのではないかとということです。

事務局

市への寄付では納税に必要な金額を得るというのは難しいのではないかとと思うのですが、こういった趣旨でしょうか。農地の寄付行為を受けた時に市が全額控除されるという認識はないので確認させていただきます。

3番 森田委員

他自治体の事例を調査し都立大に農業サイドの観点を有した農学部新設もしくは都市農業研究ゼミの新設する意見には、私は反対意見です。理由は農学部を作るのは簡単ではありませんし、研究者や学者を集めてもおそらく効果は低いです。やるのであれば、都市農業を研究して自治体に落とし込んでいくような組織を作るべきだと思います。

5番 北沢委員 私は賛成意見です。都の農業振興計画も農業振興ビジョンと同じです。研究者や大学の先生が提案することができると思います。研究がすぐに実現するか分かりませんが、都立大に農学部や都市農業研究ゼミを作ることは非常に意味があると思います。

3番 森田委員 都における都市農業を保全し、発展させていくために必要な調査研究及びその実効が、もし既存の組織や団体で十分にカバーできないのであれば、新しい組織を作って対応する必要があります。その場合は都立大学に農学部を新設するなど問題を矮小化せずに、また調査研究にだけでなく結果を社会実装することができる実効力ある組織とするために、研究者だけでなく広く関係者を集めた組織の新設を検討すべきだと考えています。

事務局 この件については市でも様々なご意見があることや、もっと実効性のある取組みに費用をかけた方が良いという意見もあるということでしょうか。

会長 承知いたしました。  
それでは、これらのご意見を地区別検討会に持っていきたいと思います。

続きまして、  
(7) 農業委員の改選について  
事務局より説明を求めます。

事務局 [事務局説明]

会長 以上について、何かご質問等ございますか。

[質疑なし]

会長 最後に、  
(8) その他 会議等日程  
事務局より説明を求めます。

事務局 [事務局説明]

会長

最後に委員の皆様や事務局から何かございますか。

特になければ、以上をもちまして、本日の全員協議会を終了いたします。

ご協力ありがとうございました。

閉会時刻 午前 4 時 49 分